

# チーム花園シーズンI



多くのご来賓のご臨席のもと、保護者や5・6年生が見守る中、入場してきた1年生。少し緊張した様子でしたが、私のお話(あいさつ、なかよし、いのち)も聞いて「ありがとうございます。」としっかりとお礼も言えました。しっかりした1年生だなあと感心しました。でも毎年なのですが、写真撮影ではかなり写真屋さんが苦勞されますね。レンズを見るよう指示されますが、子どもたち全員がきちんと前を向いているシャッターチャンスがなかなかおとずれません。写真撮影も3クラスで30分程かかりました。1年生みんなよく頑張りました。



職員一同、この素直でしっかりした子どもたちのキラキラした瞳から元気をもらいながら頑張ります。

さて、幼稚園・保育園から小学生になると登校班での登校が始まります。最初はお家の方に送ってもらえずに泣いてしまうお子さんもいらっしゃいましたが、優しい班長さんを中心に歩いてくることに慣れてきたのか最近はたのしく笑顔で登校する姿が増えました。班のみんなも歩き方を1年生にあわせたり、横にはみ出しそうにする子に優しく諭したりと、多方面に気を配りながらの登校で、真剣な面持ちです。緊張感をもって連れてきてくれています。本当にありがたいですね。



兄弟姉妹の少ない現状で、こういう異年齢交流はとても貴重な体験だと思います。

登校班のお兄さんお姉さんに「ありがとう」と言えたらいいですね。

## チーム花園シーズンIの出發です!

前任校は熊本市立飽田東小です。校長2校目です。どうぞよろしくお願ひします。

これから学校だより「チーム花園」シーズンIを定期的に発行します。私自身が日頃感じていることや子育てに関する様々な情報について書いてみたいと思っています。学校の行事やいろんな出来事については、学級通信や学校ホームページなどで随時お知らせしていこうと思っています。

花園小が、毎日「笑いと感動の日々」になるようにできることから始めます。よろしくお願ひします。

### ABCDの原則

**A: あたりまえのことを C: ちゃんとやれる人こそ**  
**B: ほかにしなくて D: できる人** を合言葉に取り組みでいきたいと思っています。

あたりまえのこととは、あいさつ、そうじ、整理整頓、まじめに学習、話を聞く、自転車の決まりを守る、宿題をする、意地悪しない、ご飯をちゃんと食べる など本当にあたりまえのことです。このあたりまえのことをちゃんとやっている子どもたちは、後に必ずすばらしい成果をあげると信じています。



## 平成30年度学校教育目標 「やる気と自信に満ちあふれた花園っ子の育成」

人は気持ちの持ち方がとても大事で、やる気がみなぎり自分に自信が持てる状態が理想だと思っています。そこで学校では、子どもたちがいろんなことにチャレンジする過程で、とてもいい行動をしたときや頑張っている時にタイミングよく「認め、ほめ、励ます」ことを繰り返して行っていきます。

そうすることで、自己肯定感や他者信頼感をもつことができて、それがやる気や自信につながればいいなと思います。



## 子どもたちにとって家庭や学級が 安心できる居場所になるために！

全国学力・学習状況調査で常に上位にランクされている秋田県の学校では、よほどガツガツと学習に力をいれているんだろうと思っていましたが、数年前に実際に行ってみて感じたのは、学級の風土がとても和やかで活気に満ち溢れていたことです。

家庭学習もほぼ100%の子どもたちがやってくると聞きました。

学びを支える学級づくり・学校づくりが基盤にあることが分かりました。また、秋田の家庭が子どもたちにとっての安心できる居場所になっていることも感じました。

学力アップを目指すためには、まず子どもたちにとって家庭や学級が「居場所」になっていることが大前提だと思いました。

「居場所」となるには2つの条件があります。それは、「ルールの定着」と「ふれあいの確立」です。

ルールについては、子どもたちに「安心の枠」を築いてやることです。自分がルールを守ることでルールに自分も守られるというみんなが安心できる環境をつくることです。ふれあいとは、お互いの構えを除いたホンネが言える関係のことです。また、ふれあいは、プラスもマイナスも含めた感情交流ができる関係とも言えます。

本校では、「ルールの定着」についてはA B C Dの原則を基盤にし、当たり前のことを当たり前にできるよう指導していきます。

「ふれあいの確立」については、意図的にふれあう活動を設定し、ふれあい活動を通して人間関係づくりを行っていきたくと考えています。

ふれあいについては、「関係づくりの第一歩は相手への関心」ということを踏まえ、まずは相手が何に関心をもっているかを知り、次にその関心の「土俵」に足を一步踏み入れることができるような体験活動を仕組んでいきます。

700名ほど子どもがいれば、互いに知らないことだらけです。互いのことをよく知り、互いに理解し合える活動を数多く取り入れていきたいです。



## 「親業」-子どもの考える力を のばす親子関係のつくり方-

トマス・ゴードン著より

この中で「受容的な親になることで子どもとの関係を築くことができる」と著者は言っています。受容的な親は、

子ども一人ひとりの独自性を受け入れる用意があり、子どものもつ能力に応じて成長することを許すそうです。



受容的な親は、子どもに自分独自の人生の「プログラム」を喜んでつくらせてやる。受容度の低い親は、子どもに代わって子どもの人生の「プログラム」をつくってやる必要を感じる。

この本の中でさらに、ギブランの「預言者」の一節を引用して次のように言っています。

あなたの子どもは、あなたの子どもではない  
待ち焦がれた生そのものの息子であり、娘である  
あなたを経てきたが、あなたから来たのではない  
あなたと共にいるが、あなたには属してはいない  
あなたは愛情を与えても、  
考えを与えてはならない  
なぜなら、彼らには彼らの考えがあるから  
あなたが彼らようになる努力はしたとしても、  
彼らをあなたのようにすることを  
求めてはならない  
なぜなら、生は後戻りしないし、  
きのうのままにとどまりもしないのだから

私はこれを読んで納得しました。みなさんいかがでしょうか？

### 子どもを伸ばす長所発見のポイント

#### vol.1 発想の転換

「動作が遅い」ことは「あわてない、慎重である、おおらかである。」と考えることができます。発想を変えて子どもさんを見直すことで、長所として生きてきます。

花園小学校ホームページ→<http://www.city.uto.kumamoto.jp/school/hanazono-es/>  
検索ワード→宇土市立花園小学校